惜しまれつつ閉校!!

３月31日で閉校となる水産高校の第57回卒業証書授与式・閉校記念式典が３月１日（日）挙行されました。
式典には、同校ＯＢも多数出席し「水高」最後の卒業生29人を送り出すとともに母校に別れを告げました。
同校は、昭和11年県立水産学校として創立され、学校統合など経た後、県内唯一の水産高等学校として地元から「水高」として親しまれ、これまで5,609人の卒業生を送り出すとともに多くの漁業関係者を育ててきました。４月からは、徳島工業・徳島東工業と統合し、徳島科学技術高校として徳島市に移ることとなりますが、今後も「日和佐マリンキャンパス」として一部使用されることとなっています。

徳水精神は永遠に

徳島県立水産高等学校同窓会長　　中　川　誠　也

昭和11年、地域の熱い要望のもと徳島県立水産学校として創立された本校は、平成21年３月をもって閉校することになった。
振り返ると本校は遠洋漁業の発展とともにあった。九州の以西底引き、神奈川県三崎の鮪延縄漁業の中心となってその発展を支えたのは、徳島県の出身者であった。明治42年、由岐の一漁民が小舟で帆と櫓を操って瀬戸内海を抜け、北九州に出漁して以来、年とともに出漁者が増え釣漁業から網漁業へと発展した。後継者を求める声が次第に高まり、本校創立の要望になった。
学校の発展期に「水産魂」という言葉が盛んに言われた。この言葉は水産特有の厳しい環境に耐える力を養うためにあったものと考えている。この「水産魂」をわかりやすく説いたものが「水訓」であろう。今母校の玄関脇にあるこの「水訓」の碑を卒業生の心の拠り所として残すことにした。
時移り現校舎が消えるときが来ても、この石碑とその精神が永遠に残ることを願っている。

御　　礼

徳島県立水産高等学校長　　富　本　輝　仁

３月１日に藤井美波町長様、谷﨑茂一教育委員長様、谷﨑満則教育長様、左海漁協組合長様、中村小学校長様、近藤中学校長様、岩丸県議様、西沢県議様、重清県議様、山川南部総合県民局長様等の御来賓をはじめ、旧職員、同窓生、保護者等400人を超える皆様をお迎えし、最後の卒業式と閉校記念式典を挙行いたしました。福山県議会議長、三好教育委員長、中川誠也同窓会長から閉校を惜しむ心にしみるご挨拶をいただきました。

美波町の皆様には永年本校に熱烈なご支援をいただき心から御礼申し上げます。
本校は、昭和11年に創立以来73年美波町で水産教育を行って参りましたが、最後の卒業生29人を送り出し、皆様に愛された水高を閉じます。
４月に徳島工業、徳島東工業高校と統合し、徳島科学技術高校として開校します。「日和佐マリンキャンパス」として一部使用され、実習船「阿州丸」が入港し、水産教育を引き継ぎます。どうかご支援をお願いいたします。

閉校の日を迎え

徳島県立水産高等学校　海洋工学科卒業　　立　石　岳　人

閉校の日を迎え、最後の水高生として頑張ってきた３年間、数々の思い出とひとつの学校がなくなるということの重さを実感し、胸が潰れるほどの思いが心の底からこみ上げてくるのを感じます。今日は水産高校最後の卒業生として別れを惜しみます。そして、明日からは最後の卒業生という誇りと、３年間で大きく成長したという自信とを胸に、新たな船出の１ページを力強く進んでいきます。
最後になりましたが、私たちを支えてくださった先生方、そして73年の伝統を守り引き継いでくださったＯＢの方々、また、水産高校を応援してくださった地域の皆様に、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当に有難うございました。水高最後の卒業生29名を代表して挨拶の言葉といたします。